

昨年十一月、口ノノベル和平賞を受けて、「モチア・ヒー」世界に訴え続けた。世界は高く評価されられて、被爆六十年戦後・被爆八十年目にとまるが、世界はいそう厳しく本は、核兵器保有者との対話を橋渡し役として國との橋渡し役として役割や果たすべきであり、核も戦争もあり、私たちも歴史の中で何とかして生きる。

昨年十一月、口ノノベル和平賞を受けて、「モチア・ヒー」世界に訴え続けた。世界は高く評価されられて、被爆六十年戦後・被爆六年目となるが、世界はいっそう厳しく本は、核兵器保有者唯一の戦争被爆による。民主義」を西・分断が深まり、「。本は、核兵器保有者との対話を核渡し役と国との橋渡し役として効果ある取組みを繰り返して、私たちも歴史の中で何とかなり、核も戦争も

はい和平な
人の継承者と
思つ。そして
責任がある
向けて、各国
は国と非保有
ある日

A black and white portrait of a man with short dark hair, wearing a light-colored dress shirt and a dark tie. He is looking slightly to his left with a neutral expression.

第三回國大中央委員会要旨
福田英樹 私鉄総連委員長
書 昨年
いじたる統一の感銘に協力でござ
れまでも月節よりとりとめなを挙
げて、いさつ第三回國大中央委員會
書 昨年
いじたる統一の感銘に協力でござ
れまでも月節よりとりとめなを挙
げて、いさつ第三回國大中央委員會

二二

賃上げの流れ止めず生活改善を

私は株式会社日本通運の代表取締役である。この会社は、主に運送業を営んでおり、多くの企業と提携して物流サービスを提供している。私自身は、この会社で約20年間勤務し、現在は最高責任者として、組織全体の運営を担当している。

当社は、品質と信頼を第一に重視する企業であり、常に顧客満足度向上を目指している。また、社会貢献活動も積極的に行っている。今後は、AIやロボットなどの最新技術を導入して、効率化と安全性の向上を図りたいと考えている。

最後に、皆様には、これまでの支持に感謝の意を表すとともに、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

質上げ原資の確保を目的とした運賃改定の要求を定期的な改定ができるよう発言していく

議案の作成が十月から始まっているから言えます。この二年を要求するとしている。大手の中の二つが、産業内の格差を是正する。つまりは議論のなかで検討している。また、25春闘の統一要求じと考えているのか。八年半は議論のなかで検討していなかった。24春闘の低毎年、総合物価指数の四月から九月まで見えて。要い要素額となつていて。要る考えています。この二年は、春闘の統一要求じと考えているのか。



八島単組代表

<p>浅見中央委員</p> <p>道</p> <p>浅見中央委員(東武鉄</p>	<p>は、まさに運賃への価格転 換を目的とした運賃改定 とが求められていて。産業 ののみならずも強く認識して いたたかいで構築するこ とがある。私鉄連どして現 状がある。政黨のなかで価格転嫁 民鉄協との労使協議会の際 別統一闘争のもと、全ての 私鉄の仲間団結し、要求 ができてるうえ進めていくた めに、ぜひも實じ原資の 確保を目的として精一杯交渉 の実施を訴えてほしい。</p>	<p>きつけがはかられたが生 保と着手に繋げていく。 24春闘は月給賞金の引 きはかり、ひいては人材の確 かな運営改定ができるよう向 け、大手、中小との格差是 正=連合の方針で。</p> <p>浅見中央委員(東武鉄</p> <p>は私たちの生活直撃して 定でしか成してられない考え方 総連の方針では、定昇 米花組代表曰く丸自 分が%に満たない組</p>
--	---	--

25 春閏方針案



須藤单組代表



八島單組代表

燃料油価格高騰に対する緊急要請も展開



25春闘 交通政策要求実現中央行動

法・鉄道運

鶴田物流・自動車局長に要請書を提出した。生活がかかる現状、今後の生活に対する厳しい見方説明を行い、交渉促進に向危機感を訴えた。



鶴田書記長

生活が上らない現状、今後のが、交渉料についての情報共有した。

分析結果の活用を

25春闘文渉促進対策会議

員長は、「貴金属の関係に

高騰でその収益は相殺され

た。高騰によって貿易の流れが

途絶えた場合、離職に拍車

にかかる現状、必要不足がさら

に深刻化する」など、強い

意見がこれまで変わらぬ

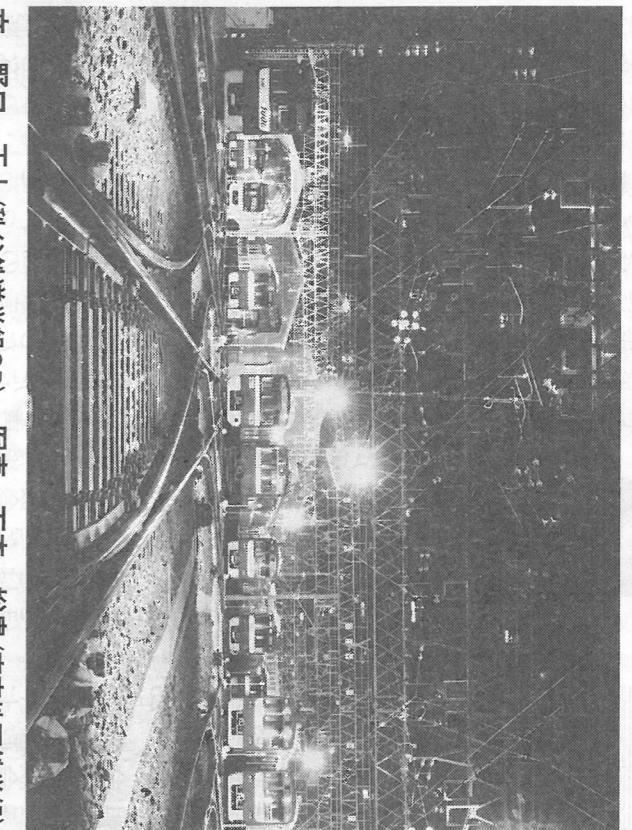
ままだった。

使用者が組合員に支払わ

る賃金の関係に支払わ

休息

「もりやたかし」さと政策実現をめざす集会



又 野口 正王(株式会社野口正王) 手具 右藤 裕貴(東京地下鉄会社)

私鉄文学集団・報道写真集団共作

30 行云

眠る車両基地

國民の足となり
鐵道で動く中国の
胸にあるのは
欠かせない交通手段の鐵
命預かる誇りを持とう
合言葉をじっかの胸に秘
今日日本で多く人が乗って
め
頬の目的の日々
張りめぐらされて
日々
業務にあたってから
今は欠かせない交通手段
頑張れるもので
頬ほんがらみながら
その重書きは誰もが分かる
安心 快適 性格
車両は出番を待っている
鉄道路線はJRと私鉄
信頼の基盤は
段

דָּבָרְךָ



25春鬪勝利。

◆日時 3月5日(水) 18時から
◆場所 日比谷公園大音楽堂

